

令和4年度 学校自己評価システムシート（埼玉県立越谷南高等学校）

目指す学校像	「文武両道」をとおして「知・徳・体」の調和を実現し、目標を高く持って社会に貢献する人材を育てる学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> PISA タイムやICT 活用による授業改善・教材開発を推進し、生徒が実感できる確かな学力の向上を確立する。 自主性を育むメリハリある生徒指導やきめ細やかな進路指導を充実させ、学校行事や部活動など「文武両道」に基づく豊かな人間性を育成する。 外国語科の特性を生かし、異文化理解を深め、語学力を向上させ、主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒を育成する。 教育活動を積極的に地域・保護者に発信し、開かれた学校づくりを更に推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】PISA 型読解力が身に付いていない生徒が多い。「PISA タイム」を実施しながら出てきた課題に対し、迅速に対応する必要がある。また、1・2年生の授業以外での学習時間1日2時間以内の生徒の割合は、両学年約88%である。</p> <p>【課題】○「PISA タイム」での新たな課題への対応と教材研究・開発を行う。 ○生徒の可処分時間増加に伴う授業以外の学習時間を増加させる。</p>	<p>「PISA タイム」の円滑な実施と新たな課題解決に向けて迅速に対応する。</p> <p>1年生及び2年生の授業以外の学習時間を昨年度より増加させる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 運営方法等について、各考査前に委員会で検証する。 実施した教材を学期末に委員会で分析する。 教材に関する情報を提供する。 	<ol style="list-style-type: none"> 運営上の課題解決の件数 分析した教材の内容 提供した情報数 	<p>年度当初、全生徒対象説明会を実施し、円滑に導入。生徒のモチベーション維持のため、「PISA タイム新聞」を毎月発行。 ①課題半明ごとに委員会を開催(2回)。 ②1学期分析です。 2学期12/20「PISA タイム」学力到達度調査(河合塾模試)実施(1・2学年対象)。 ③情報は提供できなかった。各チームで新聞以外の媒体から統計調査等を活用した教材を作成</p> <p>1・2年生の授業以外での2時間以上の学習者率 <平日>1年生24.6%、2年生7.2% <休日>1年生23.8%、2年生26.6% ①年度当初、1年生対象説明会を実施したが、その後声掛けは不十分。 ②スタディサブリ総視聴時間4月12日11383時間(1年682h、2年5180h、3年5521h)、一人当たり時間(1年1.9h 2年14.6h 3年15.9h) ③越南Diary活用率1年62.1%、2年53.7%、3年63.0%</p>	B	<p>◎生徒の「PISA タイム」取組む意欲を維持及び高揚させることが課題である。</p> <p>○PISA タイム検討委員会で、作成した教材内容と提出率の相関関係を検証する。</p> <p>◎1、2年生が隙間時間を活用して、スタディサブリを積極的に利用することが課題である。</p> <p>○教科担当及び担任等が活用方法を示し奨励する。</p>
2	<p>【現状】多くの生徒は基本的な生活習慣が身に付いている。大学進学者が84.8%以上で進路未決定者は5%未満である。部活動、学校行事、生徒会活動にも意欲的で多くの部が高い実績を収めている。</p> <p>【課題】○部活動統一休養日の完全実施で学校生活習慣を見直す。 ○コロナ禍での学校行事や部活動の実施方法等を工夫して実施する。</p>	<p>部活動休養日の実施で学校生活習慣を見直し充実した学校生活を送る。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止対策と創意工夫で学校行事と部活動を実施する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 担任、部顧問等から部活動休養日の有効利用について指導する。 学年集会や全校集会の講話の中で可処分時間の活用についての内容を含める。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの高校生活に関する満足度 部活動休養日の達成状況 部活動顧問間の情報共有 	<p>学校評価アンケート満足度調査結果 高い58.5% 普通32.1% 低い9.5% ①担任は、ホームルームや面談で指導。部顧問は、ミーティング等で活用状況について点検及び指導。 ②毎学期の始業式内で、校長及び生徒指導主任が時間の有効活用の内容を含めた講話を実施。</p> <p>PTAバス見学会は中止、それ以外の行事は実施方法を工夫して全て実施。 ①体育祭は競技種目を精査し全校で実施。文化祭は2部制・定員制で一般公開を実施 ②教職員への周知回数12回(1/11現在)。</p>	B	<p>◎可処分時間の活用状況の把握及び有効活用が課題である。</p> <p>○1、2学期末に部活動休養日の活用状況調査を実施する。</p> <p>◎学校行事の精選及びコロナ禍明けの学校行事の工夫・改善が課題である。</p> <p>○各学校行事の教育効果を検証して、年間行事計画を検討する。</p>
3	<p>【現状】コロナ禍の影響で海外研修と留学受け入れができず、代替の体験活動を行っている。外国語科の影響で普通科生徒にも異文化理解が徐々に浸透している。</p> <p>【課題】○外国語科生徒の学校満足度を維持して更に語学力を向上させる。 ○英語劇やディベートの指導方法を工夫・改善する。</p>	<p>海外研修の代替研修や国際理解活動で異文化理解や語学力向上に取り組む。</p>	<ol style="list-style-type: none"> オンライン英会話等のICTを活用した研修や国内代替施設で体験型研修を実施する。 これまでの英語劇やスピーチコンテストの指導内容を整理し、今年度の指導方法を工夫する。 	<ol style="list-style-type: none"> 外国語科生徒の学校評価アンケート学校生活満足度 県英語劇大会や県スピーチコンテストの大会参加結果 	<p>「英語が好きになった」と「英語の学習意欲がわいた」の肯定的回答が67.6% (アンケート調査) 留学生(受入1名、留学2名)、メキシコ州職員視察2名受入。 ①マセキは(7月-1月)に延期したが、更に、来年度に延期。東京グローバル英語学研修8月実施。 外国語科生徒学校評価アンケート満足度調査結果 高い57.9% 普通34.6% 低い7.5% ②生徒主体の校内スピーチコンテストへ変更。メキシコ州職員視察の際、生徒による学校・日本紹介を英語で実施。</p>	A	<p>◎海外研修の実施に向けた情報収集と実施方法の検討が課題である。</p> <p>◎外国語科で蓄積した異文化理解教育の実績を普通科に波及が課題である。</p> <p>○政府関係機関等からの職員派遣による行事を積極的に企画する。</p>
4	<p>【現状】学校説明会1回開催で約1,100名参加し、部活動見学会は実施方法を工夫した。ICT活用の知見を豊富に蓄積し他校や異校種へ還元している。</p> <p>【課題】○コロナ禍での学校説明会や部活動見学会の実施方法を工夫・改善する。 ○Chromebookの共同購入とICT推進の相談校の役割を担う。</p>	<p>学校説明会と部活動見学会の実施方法の工夫・改善とICT活用事例の発信で、生徒募集につなげる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 学校説明会と部活動見学会をコロナ禍でも柔軟に対応できるものに工夫改善する。 ホームページの部活動の活動と進路状況を随時更新する。 昨年度共同購入代表校としてのノウハウを他校に伝え、他校代表校をサポートする。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校説明会、部活動見学会等の合計参加者数 ホームページ内の情報更新数とホームページの閲覧者数 円滑な共同購入の実施 	<p>○12月(10月)実施中学生進路希望調査倍率 普通科1.82倍(2.24倍) (12月前年+0.03) 外国語科0.98倍(1.03倍) (12月前年+0.43) ①小規模説明会15回で559組、大規模説明会1回で600組参加 部活動体験及び見学会1005名参加 ②7月部活動ページの更新状況を点検し、10月末時点で7割更新完了。 ③共同購入代表校として、計画、業者及び他校との調整、業者選定を実施(5校での共同購入)1月中末までに協定書を発行。</p>	A	<p>◎学校説明会での申込方法の工夫・改善及び大規模と小規模の開催時期の見直しが課題である。</p> <p>○Instagramでの情報発信を充実させる。</p> <p>○情報機器共同購入代表校を輪番で行う体制を整える。</p>

学校関係者評価	実施日 令和5年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>○平日の家庭学習時間の平均が2時間以下の生徒が約8割いることが気にかかる。生徒に進路実現に向けた目標を定め、学習の必要性を早く気づかせる指導が必要であると考えます。</p> <p>○「PISA タイム」の成果は、すぐに出るものではない。教材や振り返り方法等の工夫と改善を重ね、日々の取り組みを大切にしたい。</p> <p>○スタディサブリ等与えられたもので学習を進めるのではなく、自分で考えて学習を行ってほしい。また、隙間時間の利用についても、主体的に行って欲しい。</p> <p>○生徒は、非常に落ち着いて授業に取り組み、部活動も積極的に取り組んでいる。勉強と学習の両立をするためにも部活動の活動計画等をできるだけ早く提示して欲しい。</p> <p>○不登校の生徒や退学する生徒の指導について、スクールカウンセラーの活用等を行っているが、更なる指導の工夫を行っていただきたい。</p> <p>○様々なアウトプット型の取組が見られ、ディベート力やスピーチ力の向上が確認できる。今後、発信力、対話力、社会における相互行為に必要なスキルを身に付けて欲しい。</p> <p>○ALTの活用では、一定の評価があるが、さらに満足度を高める活用方法を検討して欲しい。</p> <p>○小規模学校説明会を新たに14回導入し、多くの参加者があったと聞いている。また、締切後も希望者への対応をしたことは評価できる。</p> <p>○中学生やその保護者にとってホームページの情報は重要である。最新の情報を更新して、引き続き、積極的な情報発信をして欲しい。</p>

